

俊徳丸、蝉とぶつかる



今年の旧盂蘭盆のお参りは今までで一番苦しかったと感じています。7月

が涼し過ぎました。当寺の盂蘭盆施餓鬼会は7月28日の午前中でしたが、昼に終了し皆でお弁当を食べていた時、「今日は涼しさに助けられましたね!」と言っていた直後、その日の午後から連日酷暑に襲われ元気を奪われたまま旧盂蘭盆を迎えました。

お盆12日の朝です。腰に尿道結石らしい特徴ある鈍痛があります。痛みが治まったり痛くなったりを繰り返しながら耐えがたい激痛に見まわれることを私は何回か経験しています。今日は檀家さん宅へ午前中二十数軒お盆参りに行く日です。不安を抱えながら自転車でお寺を出発しましたが痛みは徐々に増していくようです。耐えられずもうお寺へ戻ろうとした時です。前



方上空から神風特攻隊の零戦の如くこちらに向けてアブラゼミが迫ってきました。こういった場面をスローモーションで見せられるのは毎回不思議な現象であります。左の頬骨に激震が走り私は「どうして?」と呟きつつ耐え切れず乗っていた自転車ごと転倒し、前かごに入れてあった水筒やら檀家さん宅で頂いた銘菓「な

ごやん」、ジュースなどが半径2メートルにわたり散乱し衝突事故の凄まじさを物語っていました。その激痛は耳の穴をも貫通し何も聞こえなく世間から絶縁された状態でした。私はてっきり頬骨が骨折陥没したのではないかと確かめました。アラカンにして蝉と正面衝突したのは人生初めてです。



子どもの頃、「地獄図」の前で祖母から「畜生界」の話聞いた事があります。「どんなに可愛がられて幸せそうな犬や猫や小鳥も苦しみの世界に生まれ、来世は「修羅界」を飛び越えて佛と出会うことができる「人間界」に生まれることを願い人間と関わりを持って生きる。それも畜生界の苦しみの一つ。可愛がったペットが死を迎える時、近い将来に飼い主に訪れる「大災難」をあの世へ持って行ってくれるよ。」こんな話だったような気がします。

気を取り直して自転車を起こして次の檀家さん宅へ向かおうとした時に気が付きました。尿道結石の痛みがすっかり消えていたのです。なんと不思議なことでしょう。蝉は即死状態でお寺へ持ち帰りました。蝉を見ながらお盆に祖母を偲び草。

俊徳丸